

入社式社長講話(要旨)

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

本日新たに 32 名の仲間をわが社にお迎えしたことを大変うれしく思います。グループ 2,300 名を代表し、心から歓迎の意を表します。

社会人としての第一歩を踏み出された皆さんに、社長として、社会人の先輩として、心掛けてほしいこと、心に留めてほしいことを三つお話しします。

一つ目は、「誠実である」ということです。

当社は、社風、企業風土として「誠実に、愚直に」を大事にしています。また、私たちは、化学会社に勤めるものとして技術系、事務系ともにサイエンス、ケミカルに係わって仕事をしています。サイエンス、ケミカルは自然法則の上に成り立ち、手を抜くと必ずほころびが出るものであり、絶対にごまかしが効きません。このことを常に念頭に置き、コンプライアンスをはじめ、企業人としての高い倫理観を持つことは勿論のことですが、誠実に、愚直に、一生懸命に取り組むことでしか成果を得ることができないことを肝に銘じていただきたい。

二つ目は、私の入社以来の信念でもある「変化は進化だ」ということです。企業はイノベーション、変革によって成長、発展を遂げるものですが、これは過去の延長線上にはなく、成し遂げるためには、現状に疑問を持ち、打破しなければなりません。そのためには非常に多大な労力を必要としますが、感受性豊かな若い皆さんには、十分なエネルギーが必ずあると信じています。ぜひチャレンジしてください、期待しています。

三つ目は、「仕事を好きになって欲しい」ということです。私は、入社して 5~7 年目くらいのとき、今の仕事が自分にとって天職であるのか悩みました。しかし、考えても分からないので、おもしろくなるまで仕事をしてやろうと決意しました。仕事を天職にする、困難を乗り越える秘訣は、仕事を好きになることです。徹底的に仕事をして好きになってください。

みなさんに、「Extra effort makes difference between good and great」という言葉を送ります。“Good”と“Great”の違いについて自分なりに考え、“Great”を達成できるよう、Extra effort を継続してください。

当社の創業者である高峰讓吉博士は、「医学が救うのは一人ひとりの患者だが、化学は万人を救う」という思いから、自分の父親を説得し、江戸時代から続く藩医、家業である医者ではなく、化学の道に進んだと言われております。その根底には、世の中を豊かにしたい、困っている人々を助けたいという強い気持ちが込められています。そして、日本初の化学肥料製造会社となる東京人造肥料を創業したのですが、当時、世間に認知されていない化学肥料の販売は大変困難を極め、一時は会社解散の危機に直面しました。そ

れでも諦めずに、地道に化学肥料の普及に尽力した結果、消費量は増え、当社は農作物の生産性向上に大いに貢献してきました。

その後も、当社は幾多の危機を乗り越えてきたからこそ、今日があるのです。

私たちは、化学に携わる者として、高峰博士のような「化学は万人を救う」という強い信念を持ち、どのような難局にも社員全員が一致団結して立ち向かうという気概を持たなければなりません。

コーポレートビジョンである「人類の生存と発展に貢献する企業グループ」を、日産化学のこの先 100 年の礎を、皆さんと共に作っていきたい、また、これからの会社生活を意義のあるものにしてほしい、という気持ちをお伝えして、歓迎のあいさつとします。